

## 【5月20日（月）朝礼講話】

今日は20日。交通事故「0」の日です。朝から、パトカーが巡回していたり、ライオンズクラブやボランティアの方々が交通指導をしたりしてくれていましたね。先生も通勤する途中に、たくさんの方々の姿を見ました。

最近子どもを巻き込む大きな事故が、立て続けに起きています。

滋賀県の大津市では、保育園の散歩中、道路を渡るために歩道で待機していた園児の集団に、事故を起こした車が突っ込み、2名の幼い命が奪われました。

千葉県では、公園で保育園児を遊ばせていた砂場に車が突っ込み、園児をかばった保育士さんが骨折しました。

愛知県でも、西尾市の親子が自宅近くを歩いていた所に、スピードを出した車が突っ込み、重体だったお母さんの命が奪われました。

このようなニュースを見聞きすると、先生は本当に胸が痛くなります。「もしも草平小学校の子だったら」と思うと、苦しくて言葉も出ません。

しかし、最近地域の方から電話がありました。「通学団の下校中、横に広がっていたり、ふざけていて道路に押されて飛び出したりする草平小の児童がいて大変危険です。大きな事故に遭わないかと心配しています」という内容でした。

当たり前のことですが、道路は自分たちだけが通るものではありません。また、通学路は交通事故に遭わないように、できるだけ車通りの少なく、人の目にできるだけ触れる道を選んでいきますので、当然大きな広い道路は通学路にはなっていません。

だからこそ、「集団で登下校するときには1列に並んで行きましょう」と決められています。命はお金では買えません。交通事故に遭ってからでは遅いのです。自分の命は自分で守る。それは、登下校や家に帰ってから遊ぶ時などに、横に広がらないこと、左右を確認して道路を横断することなどの交通ルールを守ることです。一度自分たちの通学団の登下校のようすや、家に帰ってからの交通安全について振り返ってください。

今日は、6年2組の小澤先生のお話を聞きます。校長先生のお話を終わります。